

万一の地震に備えましょう!

1 震度って何?

地震が起こったとき、ある場所での揺れの程度を表すのが震度で、気象庁が定めた震度階級によって震度を表しています。気象庁が発表する震度は、従来は気象庁の職員が体感したゆれの強さや周囲の被害状況などから判定していましたが、最近では震度を観測するための「震度計」が設置されるようになり、この震度計の計測値（「計測震度」といいます。）をもとに震度を決めるようになっています。

■震度階級表（平成21年3月31日改定） ※以前は震度0から7までの8階級でしたが、平成8年10月からは震度6と5をそれぞれ6弱・6強、5弱・5強に分けて10階級に改訂されました。

震度階級	人の体感・行動	屋内の状況	屋外の状況	木造建物(住宅)	
				耐震性が高い	耐震性が低い
3	屋内にいる人のほとんどが、揺れを感じる。歩いている人の中には、揺れを感じる人もいる。眠っている人の大半が、目を覚ます。	棚にある食器類が音を立てることがある。	電線が少し揺れる。		
4	ほとんどの人が驚く。歩いている人のほとんどが、揺れを感じる。眠っている人のほとんどが、目を覚ます。	電灯などのつり下げ物は大きく揺れ、棚にある食器類が音を立てることがある。座りの悪い重物が、倒れることがある。	電線が大きく揺れる。自動車を運転している、揺れに気付く人がいる。		
5弱	大半の人が、恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。	電灯などのつり下げ物は激しく揺れ、棚にある食器類、書棚の本が落ちることがある。座りの悪い重物の大半が倒れる。固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。	まれに窓ガラスが割れて落ちることがある。電柱が揺れるのがわかる。道路に被害が生じることがある。	壁などに軽微なひび割れ・亀裂がみられることがある。	
5強	大半の人が、物につかまらないうえに歩くことが難しくなり、行動に支障を感じる。	棚にある食器類や書棚の本で、落ちるものが増える。テレビが台から落ちることがある。固定していない家具が倒れることがある。	窓ガラスが割れて落ちることがある。補強されていないブロック塀が崩れることがある。掘付けが不十分な自動販売機が倒れることがある。自動車の運転が困難となり、停止する車もある。	壁などにひび割れ・亀裂がみられることがある。	壁などにひび割れ・亀裂がみられることがある。
6弱	立っていることが困難になる。	固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。	壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。	壁などに軽微なひび割れ・亀裂がみられることがある。	壁などにひび割れ・亀裂が多くなる。壁などに大きなひび割れ・亀裂が入ることがある。瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。
6強	立っていることができず、はわないと動くことができない。揺れにほんろうさず、動くこともできず、飛ばされることもある。	固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが増える。	壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する建物が多くなる。補強されていないブロック塀のほとんどが崩れる。	壁などにひび割れ・亀裂がみられることがある。	壁などに大きなひび割れ・亀裂が多くなる。傾くものや、倒れるものが増える。
7		固定していない家具のほとんどが移動したり倒れたりし、飛び出すものもある。	壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する建物が多くなる。補強されているブロック塀も破損するものがある。	壁などにひび割れ・亀裂が多くなる。まれに傾くことがある。	傾くものや、倒れるものがさらに多くなる。

2 建築物の耐震診断及び対策

皆さんの生命・財産を守るためには、建物の耐震化が重要です。

一般木造住宅の耐震診断

木造住宅の耐震性は、主に3つのチェックポイントがあるとされています。

- 建てられてから、かなりの年月が経っているか（特に昭和56年以前に建てられたものか）。
- 住宅が過去に大きな災害（地震や水害など）を経験したことがあるか。
- 住宅の構造、形、偏って大きな窓がたくさんあるなど、耐震に関わる基本的な住宅の性質に問題がないか。

耐震性の判断には建築の専門知識が要求されます。
目立った症状が無くても、耐震診断を受けることが重要です。

地震被害を最小限にするためには、まず、耐震診断を受けて「わが家」が地震に耐えられるのか確かめてください。その結果、耐震性が不十分と診断された住宅は、地震に対して安全な建物となるよう基礎や壁などを補強する耐震改修工事を行いましょう。

木造住宅の耐震化の平均的な費用は約160万円（財団法人建設経済研究所推計）といわれています。実際の施工費用とは大きく異なる場合がありますので、耐震改修を行うためには、信頼できる専門家による耐震診断と設計が必要です。

金山町では、山形県最上総合支庁と連携し、木造住宅耐震診断を実施しています。耐震改修については、県の融資制度もあります。お気軽にお問い合わせください。

お問い合わせ先 金山町 環境整備課
TEL0233-52-2111(代)

雪にも注意しましょう。

屋根が積雪で重くなっている場合、地震が起こると家屋倒壊の危険性が高まります。さらに屋根等からの落雪などの事故も起こります。また、凍結路面を運転中に地震が起こるなどして急ブレーキを踏んだ場合に、スリップの危険があります。積雪や路面凍結には、十分注意しましょう。

耐震診断・耐震改修

建物の耐震診断を行い、耐震性が低い場合は補強しましょう。

家の周りの点検

ブロック塀の補強をしたり、看板・エアコン室外機・植木等の落下防止を図りましょう。

3 家の中の安全対策

地震や火災から生命や財産を守るために、日頃から自分でできる安全対策をしましょう。

地震対策

家具の転倒や落下を防ぐ

大地震が発生すると、部屋にある家具が凶器となる場合があります。家電製品が飛んできたり、家具の転倒によりケガをするケースが多発します。家具等を固定するなど、転倒や落下防止の対策をしましょう。

また、背の高い家具の上には物を置かないようにしましょう。

転倒防止器具の使用

重いものは家具の下に収納する

背の高い家具は重心が高い分、転倒しやすくなります。収納は、重いものを下、軽いものを上に入れるようにしましょう。

ガラス等の飛散を防ぐ

地震時の衝撃や転倒時にガラスが割れても飛び散らないよう、窓ガラスや戸棚のガラス部分には、飛散防止フィルムを貼りましょう。また、食器棚については、食器が飛び出すのを防ぐため、扉の開放防止器具を取り付けましょう。

家具のない部屋で寝る

就寝中の地震を考慮して、寝室にはなるべく大きな家具などを置かないようにしましょう。

非常持出品を準備する

懐中電灯、貴重品などをリュックに入れて、避難時にすぐに持ち出せる場所に用意しておきましょう。

火災対策

壁材・カーテンなどを耐火性のものにする

火災や火災の延焼を防ぐために、家の外壁などに防火材を使用しましょう。また、カーテンや家具などもなるべく不燃性のものを使用しましょう。

不燃素材使用

ストーブなどは自動消火機能のあるものを使用しましょう

ストーブやガスコンロなどは、転倒時や異常高温時に自動で消火する機能のあるものが多く販売されていますので、なるべくそちらを使用しましょう。

自動消火装置付き

共通

玄関や通路にもものを置かない

避難経路の近くにものを置くと、避難時に邪魔になったり、逃げ道を塞いでしまう可能性があります。玄関や通路は散らかさないようにしましょう。

散らかさない!

4 地震遭遇時(発生時)の行動

地震発生! その時どうする。

地震発生時の時間経過別行動マニュアル

地震発生

最初の大きな揺れは約1分間

- 自分の身の安全を確保。 ●頭を物で覆って保護する。
- テーブル、机の下に逃げる。 ●落下物を避ける。
- 家具の転倒に気をつける。 ●ドアや窓を開けて逃げ道を確保する。

数分

揺れがおさまったら

みんなの無事を確認 火災の発生を防ぐ

- 火元の確認(出火していたら、初期消火)。 ●ブレーカーを切る。
- ガスの元栓を閉める。 ●室内の家族の安否確認。
- 屋外へ出る/靴を履く。 ●非常持出品を持つ。

家の周りの確認 隣近所の安否確認

- 塀の倒壊などはないか家の周囲を確認する。 ●余震に注意する。
- 電線の切断や道路の損壊などに注意する。
- 隣近所に声をかける。

ラジオなどで正しい情報を

- ラジオ/テレビ/防災無線/広報車 など

協力して消火活動、救出・救護活動を

- 消火、救出、救護 など ●負傷者は救護、避難させる。
- 家屋の倒壊のおそれがあれば避難(一時避難場所、避難所を確認しておきましょう。)

一時避難場所: 町民自ら判断し、一時的に避難する場所
避難所: 町が開設するもので、家が倒壊する恐れがある等の人のための一時的宿泊場所の提供や、食料・衣料・雑貨などの供給拠点
緊急輸送道路: 災害発生時の緊急対策活動を実施するために必要な道路。高速道路、一般国道及びこれらを連絡する幹線的な道路や、役場・病院など防災拠点と連絡する道路などが指定されている。

屋内にいた場合

■家中

- 揺れを感じたらまず身の安全確保。
- 揺れがおさまったら、火元の確認→消火。電気→ブレーカーを切る。ガス→元栓をしめる。
- 家族の無事を確認。
- 家族、特に乳幼児・病人・高齢者の安全確保。
- 靴を履き、すばやく屋外の安全な場所へ避難。

■集合住宅

- ドアや窓を開け、避難口を見つめる。
- エレベーターは使わず、階段を利用する。
- 炎と煙に巻き込まれないよう注意する。

■デパート・スーパー

- 頭の保護(落下物から身を守る)。
- 陳列棚やガラスから遠ざかる。
- 柱や窓わきに身を寄せ、
- 非常口を見つめる。

■劇場・ホール

- 頭の保護(落下物から身を守る)。
- 座席の間に身を隠す。
- 係員の指示に従う。 ●非常口を見つめる。

屋外にいた場合

■路上

- 何も無い広場に避難する。
- ビル街はガラスなどの落下物に注意し、頭を保護する。
- ブロック塀(石塀)、自動販売機に近づかない。
- 電柱や垂れ下がった電線は危険、注意する。

■車を運転中

- 地震を感じたらゆっくりスピードダウンして道路左側に停車し、ハザードランプ等で後方に知らせる。
- エンジンを切る。
- 揺れがおさまるまでは車外に出ず、ラジオなどで情報を確認する。
- 車を離れるときは貴重品を持ち出し、ドアのキーはつけたままでロックしない。

■電車などの車内

- 急停車時にはしっかりと吊革を掴む。
- 非常事態による脱出は、係員の指示に従う。